

採点欄

問一	ア
	直轄
	イ
	随行
	ウ
	犯
	エ
	跳
	オ
	余儀

問二
現在、行政的には「牛津川」と称し、公式書類にもそう記載されている川の名称が、昭和三十三年四月一日以降に発刊された地図でも「多久川」という以前の名称となっている、ということ。

問三
「土地の人が勝手につけたもの」と役人の言う「多久川」が、実はこの土地の人が冠した呼称ではなく、他領の者の用いたものであり、地元の人はその呼称に追従する必要を認めず、現在でも古くからの呼称である「大川」と呼んでいる人もいるくらいなのに、役人のそうした来歴とそれにまつわる人々の思いへの無関心が気になったから。

問四
潮の満干による水位の差が大きく、満潮と長雨が重なる例年のように橋が流されたが、そうした災害に耐える橋を架ける技術が当時はなく、大石で済ませた方が手間も費用もかけずに済んだから。

問五
川は人々の生活の一部であり、川が増水すると、土地や人命に大きな被害を及ぼすことを肌身で感じてきた人々が、どうか少しでも川の流れが穏やかであってほしいと切実に訴える気持ち。

問六
雨後の川は、くなくなつた話

問七
歴史を知るにしても、文章を読むにしても、ただ一つの史料に当たってその内容を理解できれば十分だということではなく、他の文書や文書以外の様々な「モノ」、老人達の「言葉」を重ね合わせ、そこから歴史を生きた人々の思いを理解しようとする努力によって、歴史も文書も本来の姿を少しずつ私たちに示してくれる、ということ。

合計点

氏名

受験番号

国語解答紙(その二)

採点欄

一一

問一

a
すぐに
b
互いに

問二

この日は雑事に取り紛れて忙しく、歌を詠むこともしなかったということ。

問三

雨は晴れたものの、昼からの風が依然として強く、風にあおられた波しぶきに映る月も散り乱れて見えた情景。

問四

Aの「や」が係助詞で疑問を表しているのに対して、Bの「や」は間投助詞で詠嘆を表している。

問五

長月
今鏡

問六

伊崎の港に住む人たちが、今日は重陽の節句だと知っていて、菊の枝を折りとっていたのは、実方があやめを端午の節句に飾ることを知らないと記していた陸奥の国の人と異なつて、この上なく風情があると思われます。

問七

船旅での宿泊に慣れたので、嵐の音も月の光も私の旅に同行する友のように親しく感じられる、というもの。

問八

逍遙公に仕える小役人となって蜀に通じる道の風景を写し描くことで、山水画を創始すること一流派を興したということ。

三

問一

①
ごとに
②
かつて
③
ますます
④
また

問二

詔有るに非ざれば画く(こと)を得ず。

問三

吳道玄の絵は、描き出すと神がかっているようだ。まさに彼は張僧繇の生まれ変わりである。

問四

高い意志と強い気力に欠け、書画の芸を極めることができないような人間。

問五

神がかっているような剣の舞の見事さは、二人に尽きぬ感興を起こさせてそれぞれにすばらしい作品を残すことを可能にした。

問六

合計点

氏名

受験番号